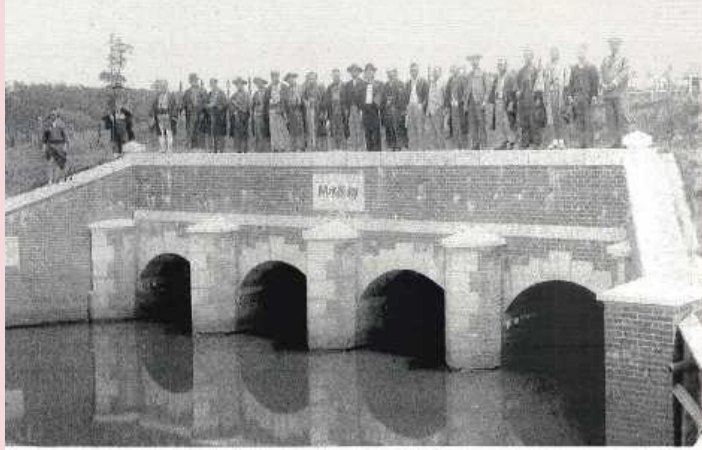




## はじめに

松戸市の西部、江戸川左岸の低湿地を流れる坂川は、水運路や農業用水路として、流域の人々の暮らしをささえてきました。一方で、古記録では「逆川」と記されているように、洪水時には合流する江戸川から水が逆流し、坂川の氾濫は毎年のように周辺農民を悩ませてきました。

そこで、江戸川からの逆流を防ぐため、坂川の江戸川合流部付近に建設されたレンガ造りの樋門が、柳原水閘（やなぎはらすいこう）です。



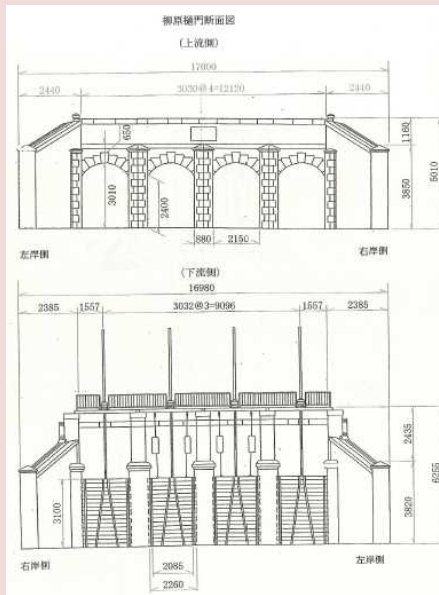
柳原水閘完成（明治37年）

完成時の様子（明治37年（1904年））柳原水閘100周年記念式典資料より

## 設計者について

設計者は井上二郎氏。井上氏は、明治22年（1889年）、東京帝国大学工科大学土木科を卒業し、東京帝国大学大学院工学科へと進み河川工学を専攻。学生時代からレンガづくり水門の建設に深く関わり、明治36年（1903年）から翌年にかけて柳原水閘の設計に従事しました。井上氏はその後、鬼怒川水力電気事業や京浜運河工事事業の設計を手掛け、また手賀沼開拓の先駆者としても活躍しました。

断面図（柳原水閘100周年記念式典資料より）



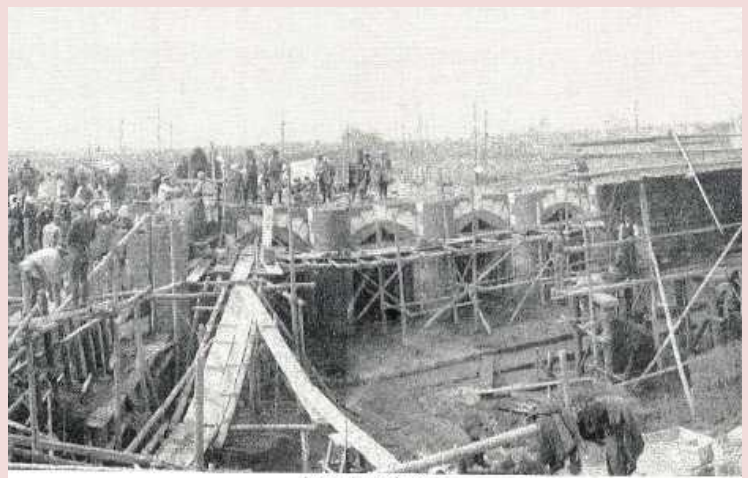
現在の柳原水閘



## 概要

起工は明治36年（1903年）11月。坂川流域の4町村（明村、馬橋村、小金町、流山村）で組織された「坂川普通水利組合」により建設され、明治37年（1904年）4月に竣工しました。

4連アーチの樋門を持ち、下流部にゲートがついています。アーチ形状は欠円アーチで、上流（呑口）側正面のアーチ部には、互いに大きさの異なる石材が用いられています。



柳原水閘建設中

建設中の様子（明治37年（1904年）頃）柳原水閘100周年記念式典資料より

## 役割の終わり

平成6年3月、上流側の国分川水路のトンネル通水を機に、柳原水閘は治水工の役割を終えました。しかし、優雅なデザインとともに、明治時代のレンガ積工法を現在に伝え、また松戸市の治水事業の歴史を語る上でも欠かすことの出来ない施設として、その歴史的価値が高く評価されています。

## 基本情報

名称：柳原水閘（やなぎはらすいこう）  
 竣工年：明治37年（1904年）  
 所在地：松戸市下矢切1397  
 アクセス：北総鉄道 矢切駅 徒歩約20分  
 JR松戸駅より京成バス「栗山」下車 徒歩15分  
 土木学会選奨土木遺産（平成16年度認定）  
 参考文献：土木学会 選奨土木遺産 柳原水閘 解説シート